

鳥取県の平井伸治知事は18日の定例会見で、建設が進む山陰道鳥取西道路（鳥取西IC－青谷IC、19.3*キロ）について、全区間の同時開通を国土交通省に求めていく考えを示した。国交省は浜村鹿野温泉IC（鳥取市鹿野町乙亥正）を境に2区間に分けて段階的に開通させる計画だが、一般道の渋滞を招き安全にも影響が出ると懸念。当初計画より遅れても、同時開通が望ましいとの見方を示した。（北尾雄一）



鳥取西道路

知事「一体開通を」

分割は安全面に影響

23日に平井知事が広

島市の中国地方整備局を訪れ、川崎茂信局長に要望する。

平井知事は「山陰道は山陽道や中国道と並ぶパイプ。（部分開通となれば）地域内道路が一気に大型トラックが通行し、混乱の元になる」と指摘。「（当初計画より）多少日程がずれても一体供用がベスト。弊害を考慮しながら調整してほしい」と述べた。

国交省は、浜村鹿野温泉IC－青谷IC間（4・7キロ）を昨年12月に開通させる予定だったが、浜村鹿野温泉IC付近で地滑りが判明。谷を埋め戻しトンネルを掘る大規模工事が必要となり、開通時期を「2019年夏まで」に遅らせた。

県内では、2008年に山陰道名和ICが開通した際、同ICと国道9号を結ぶ県道沿線で騒音・振動問題が発生し、県や国交省は対策に追われた。

鳥取西IC－浜村鹿野温泉IC間（12・8キロ）は18年内に先行開通する予定で、両区間の開通に数カ月～半年程度のずれが生じる。

国交省鳥取河川国道事務所は「現在、対策工事の工程を詰めている段階。具体的な開通時期は今後の進捗や地元意見も踏まえ、県や市とも協議して検討している」としている。

この間、利用者は県道や国道9号を経由する必要はあるが、沿線には小学校もあり、安全を懸念する地元集落などから国や県、市に一体開通を求める要望書

が出ている。